

(様式4号)

まちづくりアドバイザー派遣結果報告書

令和6年7月12日

茨城まちづくりセンター
運営委員長 殿

報告者(主催者) 日立市都市政策課長

まちづくりアドバイザー派遣制度運営要項第6条の規定に基づき、次のとおり報告します。

実施日時	令和6年7月10日(水)午後1時から午後3時まで
主催者の名称	名称 日立市 都市政策課
講演会等の名称	日立駅前の更なる賑わいづくりに向けた取組内容の検討
アドバイザー氏名	内山 征氏
実施場所	ヒタチエ5F会議室
参加者数	20名
講演内容	<p>【演題】日立駅前の更なる賑わいづくりに向けた取組内容の検討</p> <p>【内容】地域主体の日立駅前歩きたくなるまちづくりの検討を進めるため、認定NPO法人日本都市計画家協会のプログラム(講師:株アルメック内山氏)を活用し、令和5年12月から令和6年2月にかけて合計3回の出前講座を実施し、令和6年2月23日に道路や広場など公共空間の活用を目的としたワークショップ(R5)を実施した。</p> <p>また、令和6年4月11日には県アドバイザー派遣制度を活用し、ワークショップ(R5)の結果について振り返りを行い、課題や問題点を再確認したところである。</p> <p>今回は、日立駅前の更なる賑わいづくりのためのワークショップ(R6)開催(令和6年10月頃を予定)に向けて、地域住民・商店会・企業・大学・行政関係者が集まり、前回の課題や問題点を踏まえた取組内容を検討した。アドバイザーには、他市町村やまちづくり団体が実際に行ったまちづくりワークショップの事例を紹介していただき、グループワーク(10月に実施する取組の内容検討)が活発に行われるよう補助していただいた。</p>
感想など	<p>1 まちづくりのビジョンについて(前半)</p> <p>日立駅周辺地区には、まちづくりのためのビジョンがない現状及び日立駅前の歴史等を踏まえたこれまでの経緯と現状を共有し、ビジョンの作成に向けて「日立駅周辺地区でどのような活動(アクティビティ)が行われることが望ましいか」グループワーク①を実施した。</p>

(グループワーク1での意見)

- ほかの街でやっていないようなキャッチーな取組（平和通りを封鎖して、都市型のジップラインを作る）を行う。
 - 日立市はスポーツが盛んなことから駅前・平和通り・新都市広場で様々なスポーツが世代を問わず気軽にできる環境を作る。
 - 目的地进行を増やす（銭湯に来るついでに、飲食や買い物、景色（海が近いのに見えないため遠くに感じる）を楽しむ）などの活動を行う。
 - 若者が来るには、面白いものが必要であり、ファッションや写真スポットなどを増やしていく。
- ⇒今後、キーワードとなりそうな「若者」、「世代を問わない」、「スポーツが盛ん」、「海が近くて遠い」などが議論の中から掘り起こされ、地域が主体となり、活動していくための方向性となるビジョン作成に向けた議論が実施された。

2 次回のまちづくり活動の企画（後半）

アドバイザーから示していただいたまちづくり活動の事例も参考にしながら、10月に開催を検討している、まちづくりイベントに向けて「どんなことを目指して、どのような活動をやるか」グループワーク②を実施した。

【グループワーク②での意見】

- 日立市は日立鉱山を原点として企業城下町として発展してきた歴史があるため、鉱山電車を子どもたちと再現して、走らせる。
 - 子どもも大人も楽しめる回遊してスポーツができる場所を設け、スタンプラリーのように回り、スタンプの数によって記念品やキッチンカーでの割引を行う。
 - ロゲイニング（ナビゲーションスポーツ、予め写真スポットを設定し、その場所を探して写真を撮ってきてポイントを競う）を行いながら、まちなかで新たな発見をしてもらう。
- ⇒10月に実施するまちづくりイベントの開催に向けて、様々な方向から取組内容の洗い出しを行うことができた。

<当日の様子>

